

令和2年度「活動報告」

1. NPO 法人 Hachi LAB 事業(補助金事業)

令和2年度は、元年度から経営改善に取り組んだ成果の検証とその課題克服について取り組むことを決めた1年でしたが、コロナ禍で大揺れとなった幕開けで始まりました。4月16日には「緊急事態宣言」が全国に発出され、GWの帰省や旅行などの自粛が求められました。

これにより、「お祭り」の中止、お盆・正月帰省の縮小で、大きな収入源である弁当やオードブルが激減しました。(4～5月のオードブル関係は対前年で△410千円)

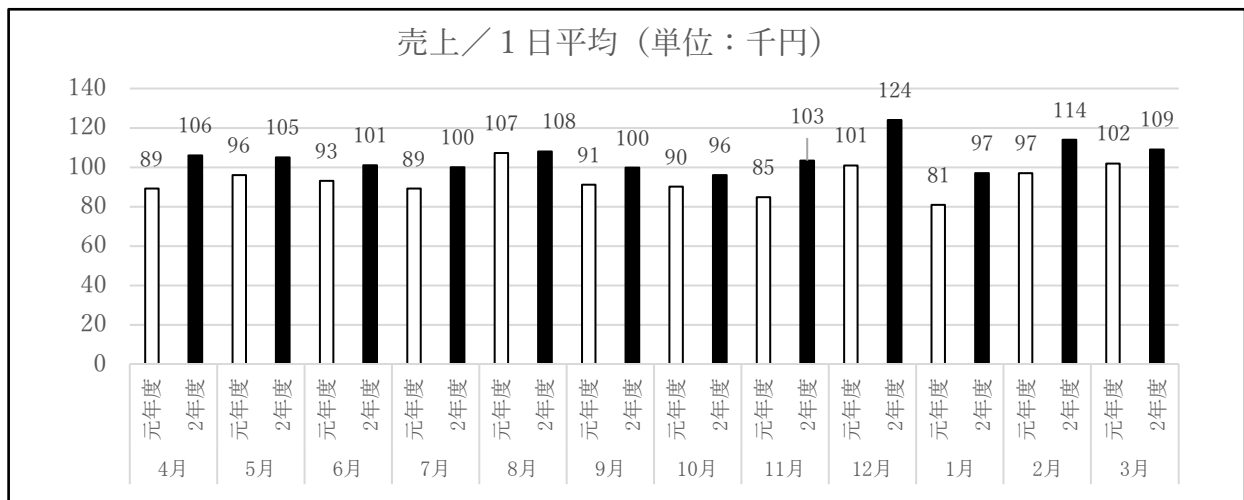
これに対して、「はちらぼ」では、GWから新たにお一人用の「ごちそう折り詰め」を発売し、個別で楽しめるお料理を求める町民の需要に応えることとしました。これが奏功し、年間ベースでは「ごちそう折り詰め」を含むオードブル関係で対前年+846千円(対前年126%)とカバーすることができました。

また、元年10月から本格開始した宅配弁当が順調に需要を伸ばし対前年+1,318千円(351%)となったことでコロナ禍による経済が停滞している中で「レジ売上」部門で+4,149千円(112.2%)となりましたが、納品関係が大きく落ち込んだことで事業収益は対前年で+2,913千円(107.5%)となりました。

こうした厳しい中で堅調に推移した要因としては、上記の弁当、オードブルの好調に加えて「町の地域商品券」の2度の配布、2年8月からの「上町商店街駐車場」の開設が顧客拡大につながりました。

一方、経費については、スタッフの退職と休職に加えて、大幅な「折詰」「弁当」の受注増に対応するために厨房スタッフのみならず、レジや事務スタッフも加えての1チーム化を推進し、事前予約では謝絶0を達成することができました。

これに加えて、仕入れを始めとする経費の圧縮努力もあり4,515千円の余剰金を生み出すことができました。



2. まちづくり活動センター管理運営委託事業

2年度は、本格的な「まちづくり活動」に国・県の補助金を活用して進めることを決めて取り組みました。

そうした中で、県は「スギッチファンド」でコロナで停滞する市民活動を支援する「緊急サポート事業」を立ち上げたことで、「はちらぼ」では、まちづくり団体の皆様と連携して「VIVA 八郎潟！」を申請、30万円の補助を得て2年10月24日～12月13日まで15のイベントを実施いたしました。これは、今まで単独で活動していた各団体が連携・提携して行う大変有意義な施策とのご評価をいただきました。

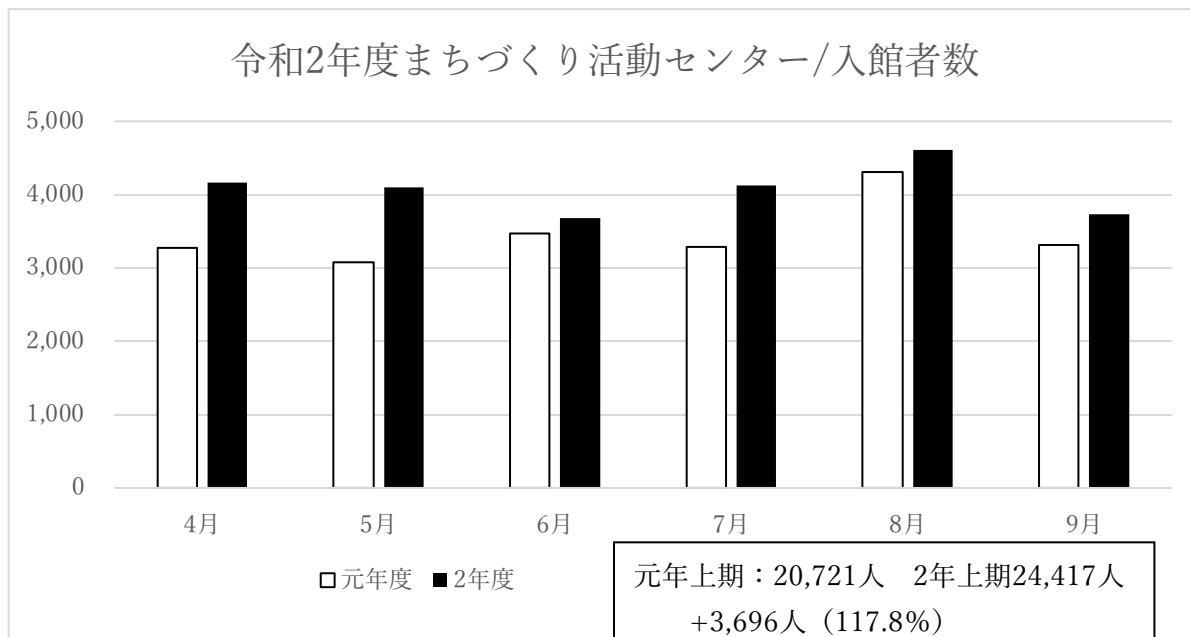
また、年度末には国の「がんばる地域応援事業」(150万円)や、県「商店街・飲食店街支援事業」(1団体500万円)の情報が町から寄せられ、関係の皆様と協議しながらこれに取り組むことといたしました。

一方、まちづくり活動センター(はちらぼハウス)の利用促進については、町立図書館のご指導とご協力を得て、サロンの「図書コーナー」が、「本を通じて人と人がつながる全国的な活動、まちライブラリー」に9月26日に秋田県で2番目に登録されました。

これにより、町民や近隣の町から多数の本が寄贈され、収納する本棚もご寄付頂き大変充実した図書サロンとなっております。

また、人気の落語高座はコロナ禍でお休みとなりましたが、恒例の「回想法ライブラリー」はリニューアルされ「健康いまトレ」の参加者も増加、「つるし飾り講習会」も大人気、更に「お花の教室」などが催され、ハウスの顧客増加と合わせて来館者数が増加しました。

一方、経費は、上記の各施策に取り組んだ他、拡大する「配達」にも対応した結果、欠員2名分の人件費の減、各種委託契約の契約見直しやこまめな経費節減効果で4,463千円の余剰となりました。



※入館者把握システム(アルソック)の不具合により10月1日から計測不能となっております。

現在、アルソックでシステムマシンのメーカーを通じて原因を究明中です。

3. まちづくり活動効果促進事業委託

(1) おもしろ市場運営

おもしろ市場は、「おもしろ市場実行委員会」(会長: 吉田和紀/KIN 代表・はちらぼ理事)でその運営を協議し、対応しています。

令和2年度は、「おもしろ市場」が更に楽しく町民交流の場となること及び町内出店者を増やすべく取り組みました。

結果、イベントとしては、出店者で親交会を作り、会費を賑わいづくりに活用することでイベントを増やしました。また、町内出店者は4店舗増加し、まさに町民の「おもしろ市場」に一步近づきました。

催行回数としては、元年度13回に対し2年度は12回に留まりました。(4月期はコロナ禍で中止、10月期は、産業文化祭の開催は定例の最終日曜日と重なったことによる)

入場者数は元年度 2,900 名(1回あたり 223 名)に対し2年度は 2,460 名(1回あたり 205 名)とコロナ禍の影響を受けました。

特筆は、元年度の産業文化祭時の催行は不人気だったものの、2年度はその打開に向けてVIVA八郎潟と共催し、願人踊と産直市を同時開催した結果、あいにくの天候にも拘らず多くの来場者と売り上げが好調でした。

(2) 商店街活性化

商店街活性化は、実行委員会を構成し(会長: 喜藤博昭駅前商店会会長・はちらぼ理事)、町民の商店街回帰を目指し、第4回目となる「スタンプラリー」(10月24日～12月12日)をVIVA八郎潟！イベントの一部として開催しました。

結果は、応募数で町外が減少しましたが、町民応募が大きく増加し400名と前年比 124.6%となりました。(町内98名増/134.9%、町外19名減少/52.5%)

(3) VIVA八郎潟！実績

別紙